

2学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年6月12日 第29号
文責:江頭 俊輔

[部活動生激励会]

6月9日（月）に部活動生激励会がありました。激励会の中では、各部が話し合って作ったマンダラチャートを発表し、最後の大会に向かう決意を新たにしました。3年生を支え、思い出に残る大会となるように、2年生も全力でサポートしよう！

[今でも忘れない！選手宣誓！]

3年生の中体連も迫っているこの頃です。部活動にいつも以上に励んでいるみなさん の様子を見て、私も元気をもらっています。スポーツをするにあたっては「スポーツマンシップ」が欠かせません。**このスポーツマンシップを体現するのが、開会式等で行われる「選手宣誓」です。**この「選手宣誓」では、大会を通した「めざす姿」を代表選手の言葉で伝えます。大会に臨む選手たちの指針となるこの「選手宣誓」は、とても注目されます。

そこで今回は、私が記憶に残っている選手宣誓をみなさんに届けたいと思っています。

これは平成24年第84回選抜高等学校野球大会（春の選抜【甲子園】）での、石巻工業高校（宮城）の阿部翔人主将の選手宣誓です。（このとき江頭少年は大学1年生でした。）これは東日本大震災からちょうど1年が経った甲子園での選手宣誓です。

「宣誓。東日本大震災から1年。日本は復興の真っ最中です。（中略）

人は誰でも、答えのない悲しみを受け入れることは苦しくてつらいことです。しかし日本がひとつになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています。

だからこそ日本中に届けます。感動、勇気、そして笑顔を。見せましょう。日本の底力、絆を。

われわれ高校球児ができること。それは全力で戦い抜き、最後まで諦めないことです。今野球ができるこ

とに感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。」

私が記憶に残っているのは、**この選手宣誓を聞いて、「スポーツの可能性」を再確認することができたからです。**スポーツは相手と競うことで、より楽しく、活発に取り組むことができます。その反面、「勝ち」「負け」という分かりやすい価値観のみに支配されることがあります。敗退してしまったときに、自分たちの積み重ねてきた努力や思いが「無駄になった」と感じてしまう人もいることでしょう。

しかし、**この選手宣誓にあるように、スポーツは「見ている人」にも大きな影響を与えます。**「日本中に届けます。感動、勇気、そして笑顔を。見せましょう。日本の底力、絆を。」との宣言は、被災地復興に何も貢献できず、無力感を味わっていた当時の江頭少年にも勇気を与えてくれました。

見せましょう、2年生の底力を、やってやりましょう、最後の大会を「最高の大会」に。

